

(公財)仙台観光国際協会
仙台観光動向レポート

調査対象期間：2022年4月1日～9月30日

当協会では、仙台市と共同で観光動向を把握しながら、データに基づいた観光施策を展開すべく、デジタルマーケティングの取り組みを始めました。本レポートでは、仙台市観光DMPをはじめ、複数のサービス等を活用し、調査結果をまとめたものをご報告いたします。

【本調査に活用した分析サービス等】

- ①仙台市観光DMP※¹
- ②観光予報プラットフォーム
- ③ヤフー・データソリューションDS.INSIGHT
- ④Destination Insights with Google
- ⑤Google Analytics

※¹「仙台市観光DMP※²」とは

旅行形態の変化によるニーズの多様化や、旅行情報収集方法のデジタル化など近年の動向を鑑み、効果的な誘客プロモーションを行うために仙台市が構築したプラットフォームです。このDMPでは、ネット検索分析データや観光情報サイト・SNSのアクセスデータ、動態データ、観光客動態調査、公的統計など様々なデータを集約・蓄積しています。

※²DMPとは

Data Management Platform（データ マネジメント プラットフォーム）の略で、様々なデータを収集・蓄積し管理するソフトウェアプラットフォームのことです。

目次

Section 1	移動情報データからみた仙台市観光動態	P.4
Section 2	主要観光エリアの訪問者数	P.7
Section 3	仙台市宿泊者数の状況	P.11
Section 4	検索行動データからみた仙台への関心度分析	P.16
Section 5	Destination Insights with Googleで見る旅行トレンド	P.18
Section 6	「せんだい旅日和」アクセス解析	P.21
まとめ		

移動情報データからみた仙台市観光動態

(1)市内エリア 地域別訪問者動態(県外のみ)

下の表は各観光スポットエリアにおける地域別訪問者の割合を示した表となります。「作並温泉」や仙台市東部エリアは、他エリアと比較して東北居住者からの来訪割合が高い傾向が見られました。「仙台城跡」は、関東居住者の割合が最も高く、次いで中部居住者と続いています。関西居住者は、他のスポットと比較して「瑞鳳殿」と「秋保大滝」の訪問割合が比較的高い傾向を示しており、「仙台城跡」の訪問割合に比べると、12%も高いことが特徴的でした。

居住地域区分 対象スポット	2022年4月～9月							
	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
仙台市中心部	4.4%	40.7%	36.9%	7.7%	5.5%	1.4%	1.3%	2.1%
仙台駅周辺	4.2%	38.4%	39.0%	7.2%	6.0%	1.6%	1.3%	2.3%
一番町	4.3%	45.6%	33.2%	8.2%	4.4%	1.0%	1.2%	2.1%
仙台城跡(青葉山公園)	1.7%	14.7%	50.3%	21.1%	6.0%	2.4%	0.3%	3.5%
瑞鳳殿	5.3%	9.4%	44.6%	16.8%	18.0%	2.3%	1.6%	2.1%
秋保温泉	3.6%	41.7%	40.6%	7.2%	4.5%	0.9%	0.8%	0.9%
作並温泉	3.4%	53.9%	28.0%	10.8%	1.6%	0.5%	0.1%	1.9%
名勝 秋保大滝	2.3%	45.4%	28.8%	5.0%	18.1%	0.2%	0.0%	0.2%
三井アウトレットパーク仙台港	2.4%	74.2%	15.0%	4.9%	2.3%	0.2%	0.3%	0.8%
仙台商みの杜水族館	3.0%	55.4%	27.9%	5.7%	4.0%	2.8%	0.5%	0.6%
仙台商プレミアム・アウトレット	0.9%	78.9%	14.4%	5.1%	0.4%	0.0%	0.0%	0.3%

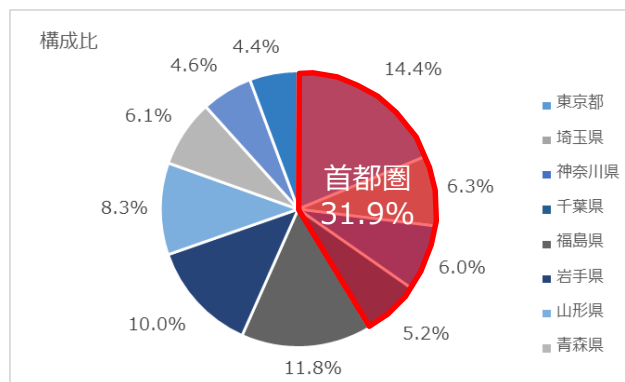


移動情報データからみた仙台市観光動態

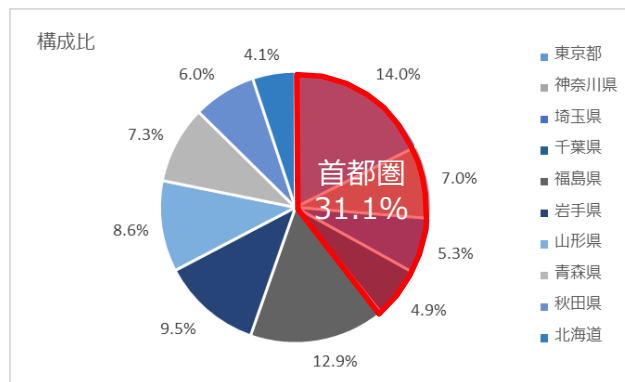
(2)仙台市中心部 居住地別平均訪問者数トップ10(県外のみ)

2022年4月～9月と、新型コロナウイルス感染症流行前の2019年の同期間を比較しています。2022年の訪問者の割合は、全体で2019年度比で72.8%であり、まだ同水準には達していませんでした。昼時間、夜時間共に居住者別の訪問ランキングの上位3都道府県は、東京都、福島県、岩手県でしたが、2022年は埼玉県が5位に上がってきており、コロナ禍ではありましたが、2019年よりも首都圏の訪問者にわずかに伸びが見られました。

	2022年4月～9月		
	時間帯	24時間平均	
	居住地都道府県	訪問者数	構成比
	総合計	3,767,083	100.0%
1	東京都	544,050	14.4%
2	福島県	443,119	11.8%
3	岩手県	376,972	10.0%
4	山形県	311,724	8.3%
5	埼玉県	237,089	6.3%
6	青森県	228,535	6.1%
7	神奈川県	224,575	6.0%
8	千葉県	194,822	5.2%
9	秋田県	174,037	4.6%
10	北海道	165,241	4.4%



	2019年4月～9月		
	時間帯	24時間平均	
	居住地都道府県	訪問者数	構成比
	総合計	5,218,199	100.0%
1	東京都	729,453	14.0%
2	福島県	673,091	12.9%
3	岩手県	496,013	9.5%
4	山形県	449,910	8.6%
5	青森県	382,469	7.3%
6	神奈川県	362,863	7.0%
7	秋田県	312,064	6.0%
8	埼玉県	279,066	5.3%
9	千葉県	253,755	4.9%
10	北海道	211,837	4.1%



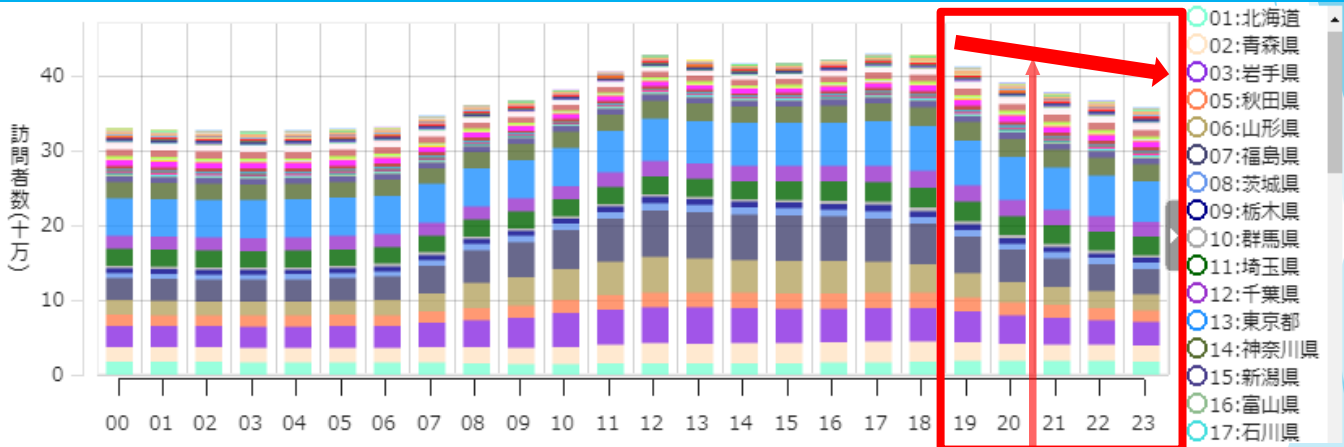
※ <24時間平均> 全時間帯（24時間）の1時間当たりの平均訪問者数

移動情報データからみた仙台市観光動態

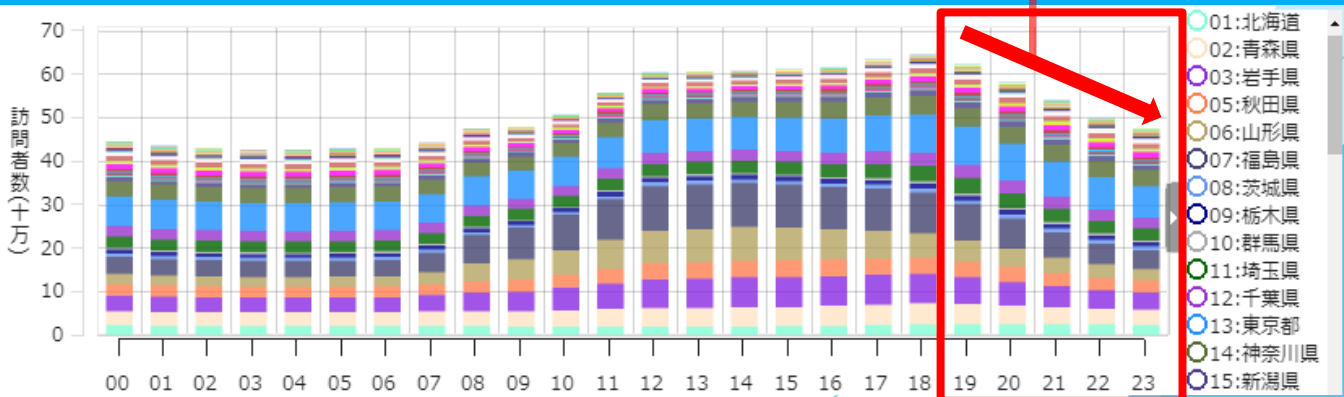
(3)仙台市中心部 時間帯別訪問者数(県外のみ)

2022年4月～9月と新型コロナウイルス感染症流行前の2019年の同期間を比較しています。グラフの曲線はほぼ同じでしたが、19時以降のカーブの角度（図内の赤矢印参照）が2022年の方が緩やかであり、昼時間から夜時間滞在人口の減少割合の幅が少ないようです。ただし、2019年同時期に比べ、元々新型コロナウイルス感染症の影響により19時～21時の時間帯での飲食店での飲食全体数が減ったままであると推察され、特に夜時間滞在人口が伸びているとは考えにくい状況です。

2022年4月～9月



2019年4月～9月



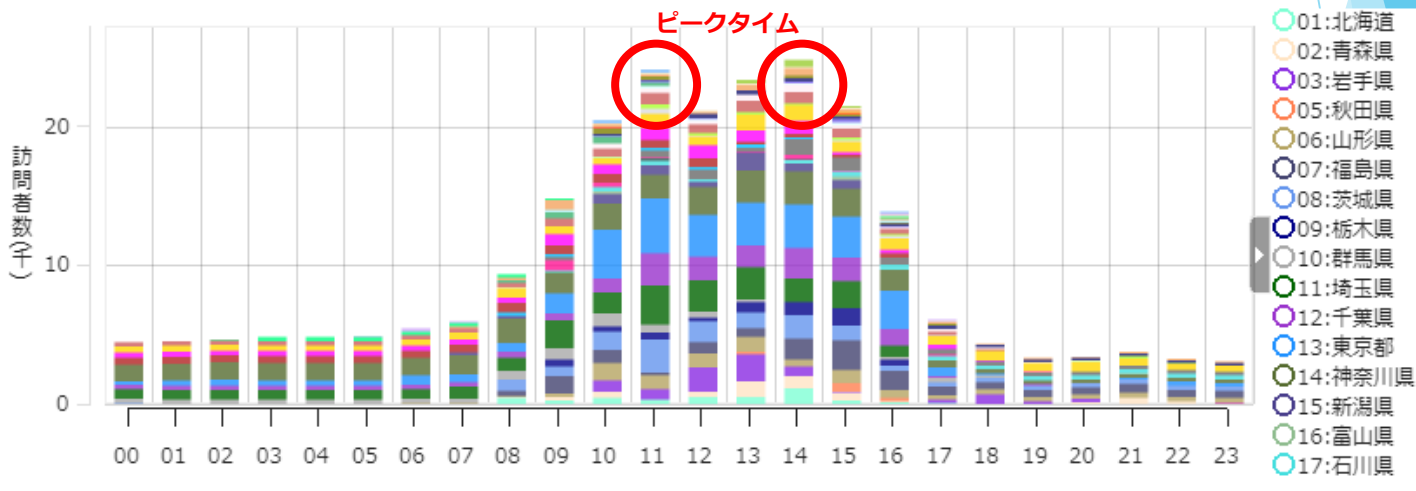
主要観光エリアの訪問者数

(1)「仙台城跡(青葉山公園)」(県外のみ)

「仙台城跡(青葉山公園)」の訪問者の居住地は、首都圏からの観光客が主となっています。グラフから、ホテルチェックアウト直後の11時台と、チェックイン前の14時台にピークを迎えるということが読み取れます。

		2022年4月～9月									
		居住地別トップ10									
対象スポット	総合計	①東京都	②神奈川県	③埼玉県	④千葉県	⑤三重県	⑥茨城県	⑦福島県	⑧愛知県	⑨山形県	⑩大阪府
仙台城跡(青葉山公園)	249,861	30,491	30,371	22,911	16,119	15,000	13,827	13,594	9,786	9,528	8,813

2022年4月～9月の時間帯別訪問者数



Section 2

主要観光エリアの訪問者数

(2)「瑞鳳殿」(県外のみ)

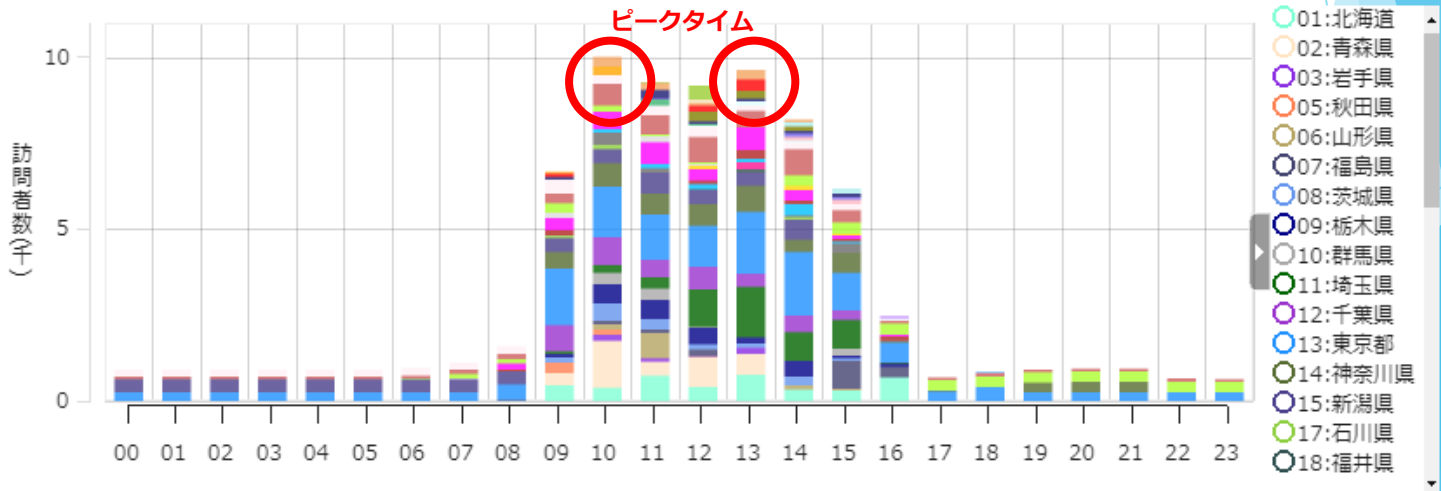
「瑞鳳殿」の訪問者は、「仙台城跡（青葉山公園）」と異なり、上位に新潟県その他、大阪府、京都府、兵庫県などの関西居住者が訪れていることが興味深い点です。グラフより、10時台と13時台にピークを迎えていることが分かり、11時台と14時台にピークを迎える「仙台城跡（青葉山公園）」の1時間前であることから、「るーぷる仙台」を活用して移動しているのではないかと推察できます。



【参考資料】

		2022年4月～9月									
		居住地別トップ10									
対象スポット	総合計	①東京都	②新潟県	③大阪府	④神奈川県	⑤埼玉県	⑥北海道	⑦千葉県	⑧京都府	⑨兵庫県	⑩青森県
瑞鳳殿	79,667	15,927	6,606	5,393	5,245	5,063	4,224	4,098	4,083	3,958	3,752

2022年4月～9月の時間帯別訪問者数

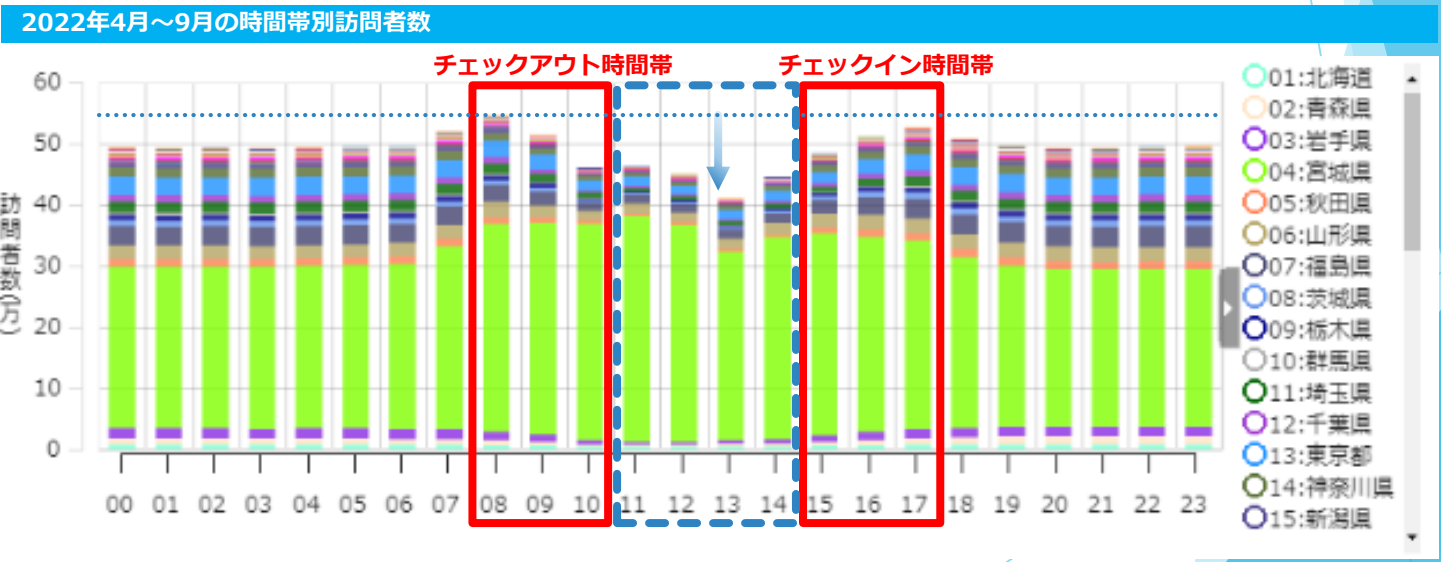


主要観光エリアの訪問者数

(3)「秋保温泉」

2022年4月～9月は、宮城県以外では福島県からの訪問者が最も多くなりました。また、東京都をはじめ、関東圏からの訪問者も多く1都6県中1都4県がトップ10入りしていることから、来訪者として関東圏からの構成比率が高いことが分かりました。また、チェックアウトからチェックインまでの時間帯である10時から15時までの滞在人口を県外客のみで見ると、夜時間滞在人口の約50%であることに対し、県内客は約120%となっており、仙台圏内からの日中の流入が顕著であることが推察されます。

		2022年4月～9月									
		居住地別トップ10									
対象スポット	総合計	①宮城県	②福島県	③東京都	④山形県	⑤埼玉県	⑥岩手県	⑦神奈川県	⑧秋田県	⑨青森県	⑩千葉県
秋保温泉	12,262,269	7,387,714	677,556	631,490	547,829	363,474	326,134	319,150	257,719	223,199	221,675

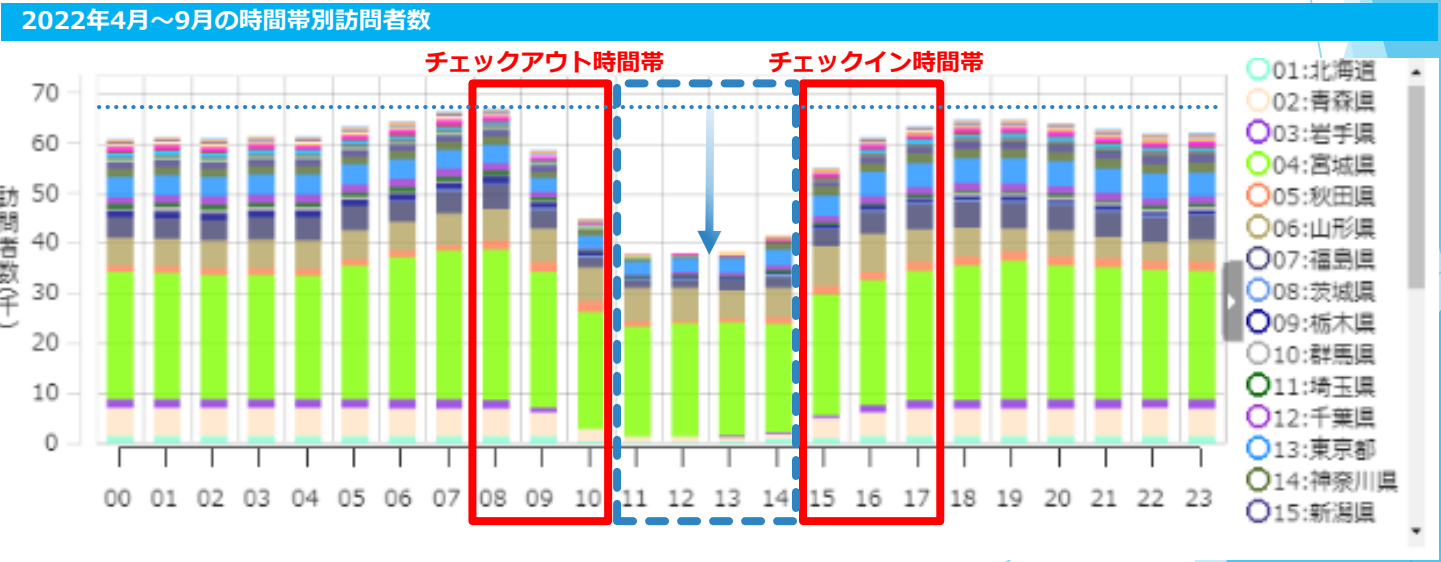


主要観光エリアの訪問者数

(4)「作並温泉」

「秋保温泉」に比べ、東北各県と新潟県、北海道がトップ10入りしており、訪問客層の居住地に違いが見られました。また、チェックアウトからチェックインまでの時間帯である10時から15時までの滞在人口を県外客のみで見ると、秋保同様夜時間滞在人口の約50%であったのに対し、県内客は約85%となっております。今後も日中帯の域内流入の動きについて注視していきたいと思っております。

		2022年4月～9月									
		居住地別トップ10									
対象スポット	総合計	①宮城県	②山形県	③青森県	④東京都	⑤福島県	⑥神奈川県	⑦秋田県	⑧岩手県	⑨千葉県	⑩北海道
作並温泉	1,443,150	639,720	146,274	115,376	99,920	99,843	38,482	38,025	33,231	32,855	26,924

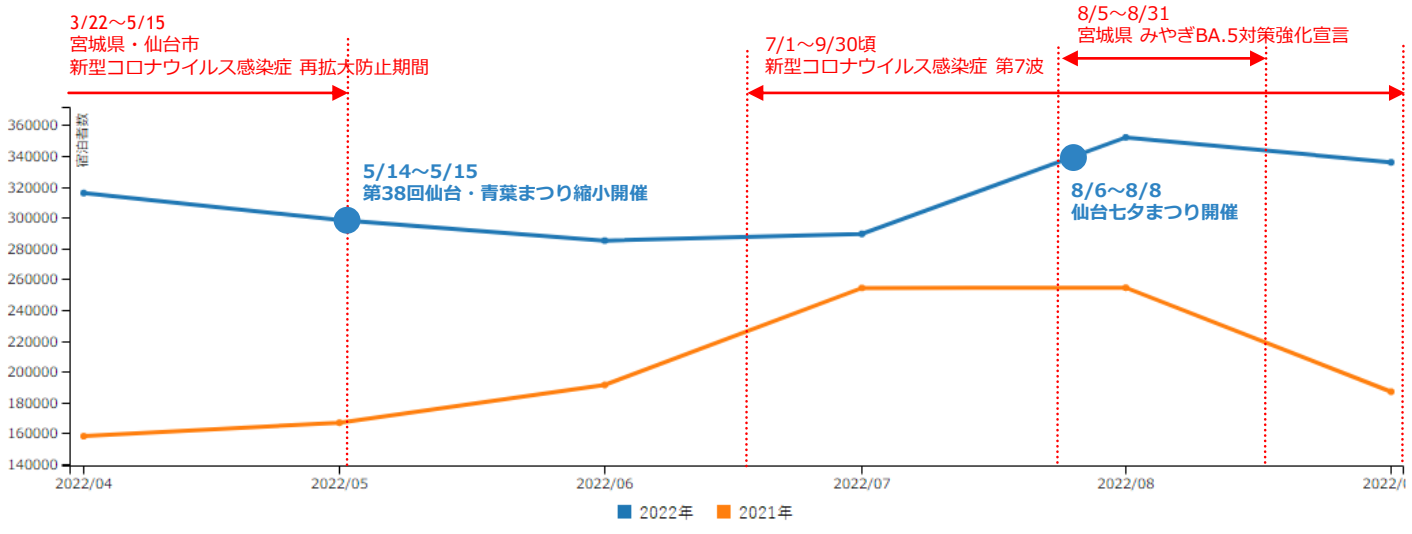


仙台市宿泊者数の状況

(1)2022年4月～9月の宿泊者数の推移(月別)

2022年4月～9月の宿泊者数は、ほぼ横ばいで、8月の繁忙期にやや増加に転じました。新型コロナウイルス感染症の第7波に7月から入りましたが、仙台七夕まつりは催事を中止しながら通常規模で開催され、賑わいが感じられた一方、8月中下旬から感染者数の増加に伴い、9月に向けて再度減少傾向に推移しました。この減少幅について検証したところ、2019年は、繁忙期と閑散期の差がはっきりしており、9月は大きく下がる傾向が見られましたが、2022年の同時期の減少幅は少なく、2021年のグラフと比較しても角度は緩やかであったことが確認できます（青線とオレンジ線参照）。

また、新型コロナウイルスの感染者数との相関関係を確認したところ、感染者数が落ち着いた時期の翌月は宿泊者数が増える傾向がみられました。これは、感染者減少期に旅行意欲が喚起され、宿泊予約を経て翌月に旅行する、という行動につながっているのではないかと推察されます。インターネットの検索行動でも、仙台の観光情報サイトの閲覧数が伸びた（＝旅行意欲が喚起された）翌月は宿泊者数が伸びる傾向が確認できました。



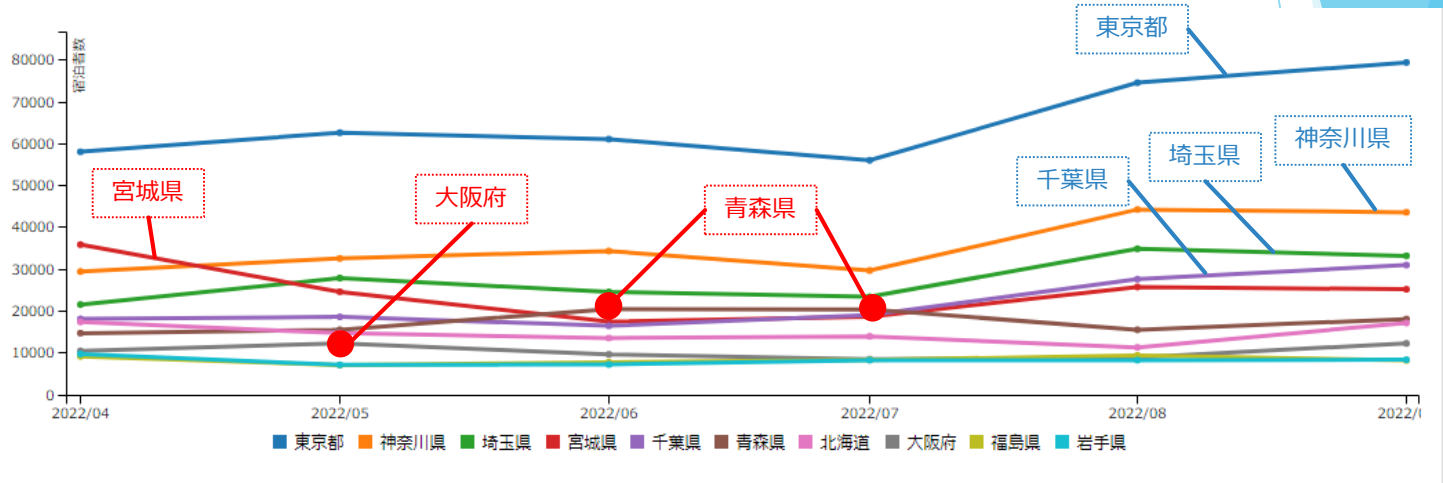
※観光予報プラットフォームとは、「地域の活性化」や「サービス事業者の生産性向上」を目指す自治体、観光協会、DMO、企業に対して、宿泊を基軸にした「観光」に関連、必要とされるデータを提供するプラットフォームです
 ※観光予報プラットフォームでは、日本全体の宿泊実績データのうち、宿泊実績・予約データ約1.4億泊（2021/6現在）のサンプリングデータ（店頭、国内ネット販売、海外向けサイトの販売）を抽出し、宿泊者数の実績、予測データを算出されています

Section 3

仙台市宿泊者数の状況

(2)2022年4月～9月の宿泊者の居住地(TOP10／月別)

2022年の4月～9月の宿泊者の居住地の構成は東京都の割合が高く、次いで神奈川県、埼玉県、千葉県といった関東圏が続きました。グラフの波形はだいたい同様ですが、宮城県の場合、5月15日まで新型コロナウイルス再拡大防止期間が設定されていた影響なのか、他都市に比べ6月までは右肩下がりの状況となっていました。一方、大阪府が5月、青森県が6月、7月にこの調査期間内ではピークを迎えており、要因となる背景については今後調査していきたいと思っております。



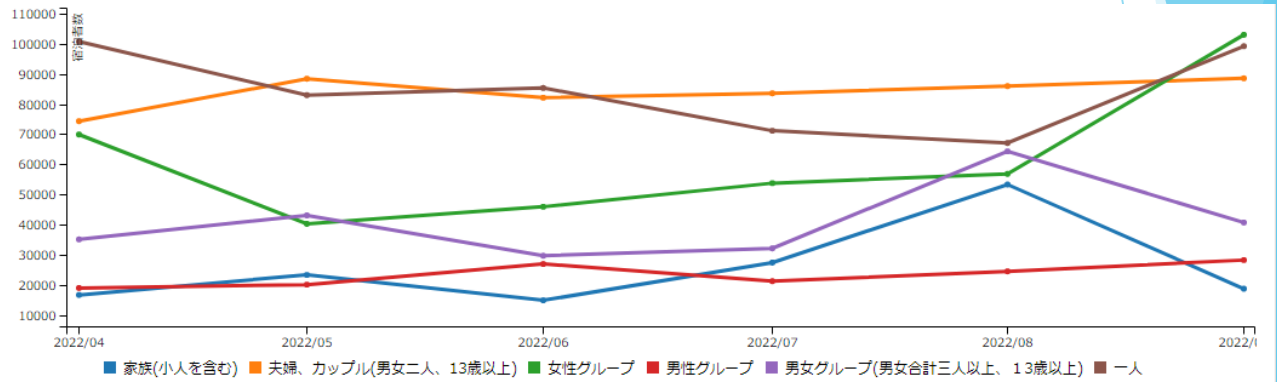
※データは、宿泊実績のサンプリングデータと宿泊旅行統計調査（出典：観光庁）より推計値を算出されています

仙台市宿泊者数の状況

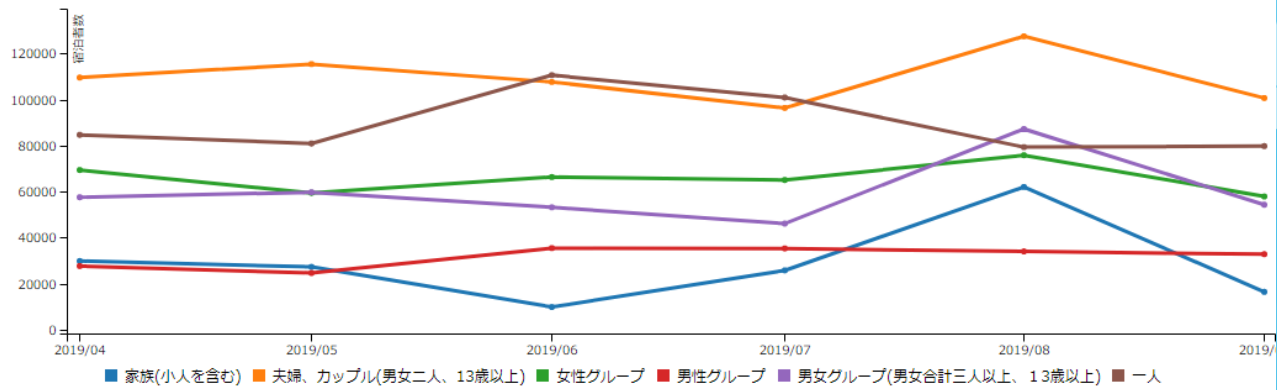
(3)旅行への参加形態別構成比(月別)

2022年の4月～9月の宿泊者の参加形態は、一人（茶線）、または夫婦・カップル（オレンジ線）の比率が高いことが分かりました。2019年と比較してみたところ、2019年は女性グループ（緑線）や男女グループ（紫線）の割合が比較的高い傾向が見られました。このことから、2022年は新型コロナウイルス感染症の影響が続き、少人数での旅行形態が主流となっているのではないかと推察しています。しかしながら、8月以降は女性グループ（緑線）の旅行が増加傾向にあると共に、男性グループ（赤線）の旅行も僅かながら上昇しつつあることから、今後の動きを注視していきたい参加形態の層となっています。家族連れ（青線）は、やはり8月がピークとなっていることがグラフから読み取れました。

2022年



2019年

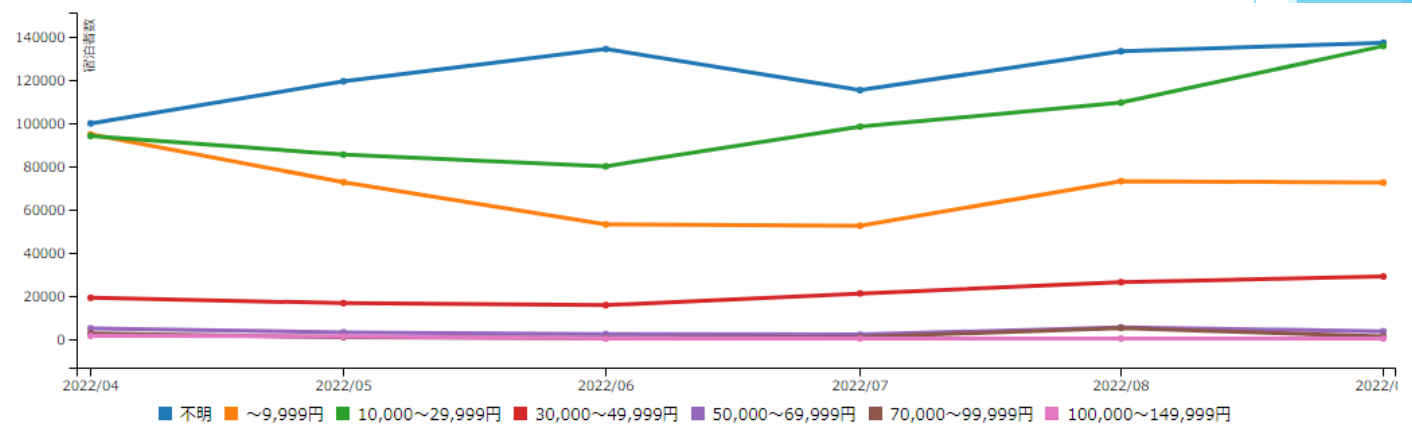


※データは、宿泊実績のサンプリングデータと宿泊旅行統計調査（出典：観光庁）より推計値を算出されています

仙台市宿泊者数の状況

(4)旅行消費単価別構成比(月別)

旅行単価構成比は10,000円～29,999円（緑線）の消費単価割合が高くなっています。観光庁が発表した旅行・観光消費動向調査の2021年の宮城県の旅行消費単価は21,000円/人※となっており、他関係都市と比較したところ平均的な消費単価であったことが分かりました。8月以降、3万円以上（赤線）の構成比が僅かながら上昇傾向にあり、今後の動きに注目したいと思います。
 ※1人1回当たり旅行支出（旅行単価）には参加費、交通費、宿泊費、飲食費、買い物代、娯楽等サービス費が含まれます。



※データは、宿泊実績のサンプリングデータと宿泊旅行統計調査（出典：観光庁）より推計値を算出されています

【参考資料】*は就航都市です

都道府県	消費単価	都道府県	消費単価	都道府県	消費単価	都道府県	消費単価
北海道*	25,000	山形県	22,000	埼玉県	12,000	大阪府*	20,000
青森県	25,000	福島県	25,000	千葉県	26,000	兵庫県*	21,000
岩手県	19,000	茨城県	15,000	東京都	17,000	島根県*	26,000
宮城県	21,000	栃木県	21,000	神奈川県	22,000	広島県*	15,000
秋田県	21,000	群馬県	22,000	愛知県*	16,000	福岡県*	19,000

※データは、国土交通省観光庁による旅行・観光消費動向調査より抽出
 ※金額には、団体・パッケージ料金に含まれる訪問地収入分が含まれていますが、都道府県間交通費は含まれていません
 また、目的は観光・ビジネス・受験・試験など全て含む全目的が対象です

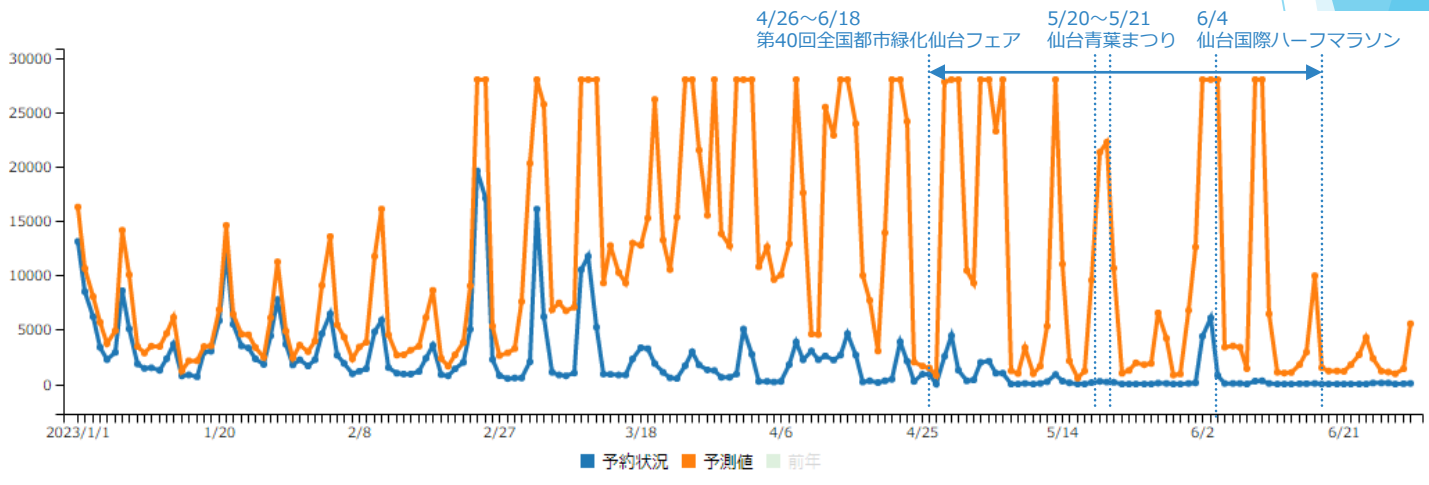
Section 3

仙台市宿泊者数の状況

(5)2023年1月～6月宿泊数予測

対象地域: 仙台市

観光予報プラットフォームでは、これまでの個人の宿泊実績、6か月先の予約数を参考に推計値として宿泊数予測をされています。予測によると2023年3月、4月が全体として混雑する見通しです。5月はゴールデンウィーク以外では落ち着きますが、6月の前半の各週末が混雑する予測が示されています。この時期の大規模イベントとしては4月26日～6月18日まで、第40回全国都市緑化仙台フェア（未来の杜せんだい2023～Feel green!）が開催されます。



※データは、日本全体の宿泊実績データのうち、宿泊実績・予約データ約1.4億泊（2021/6現在）のサンプリングデータ（店頭、国内ネット販売、海外向けサイトの販売）を抽出し、宿泊者数の実績、予測データを算出されています

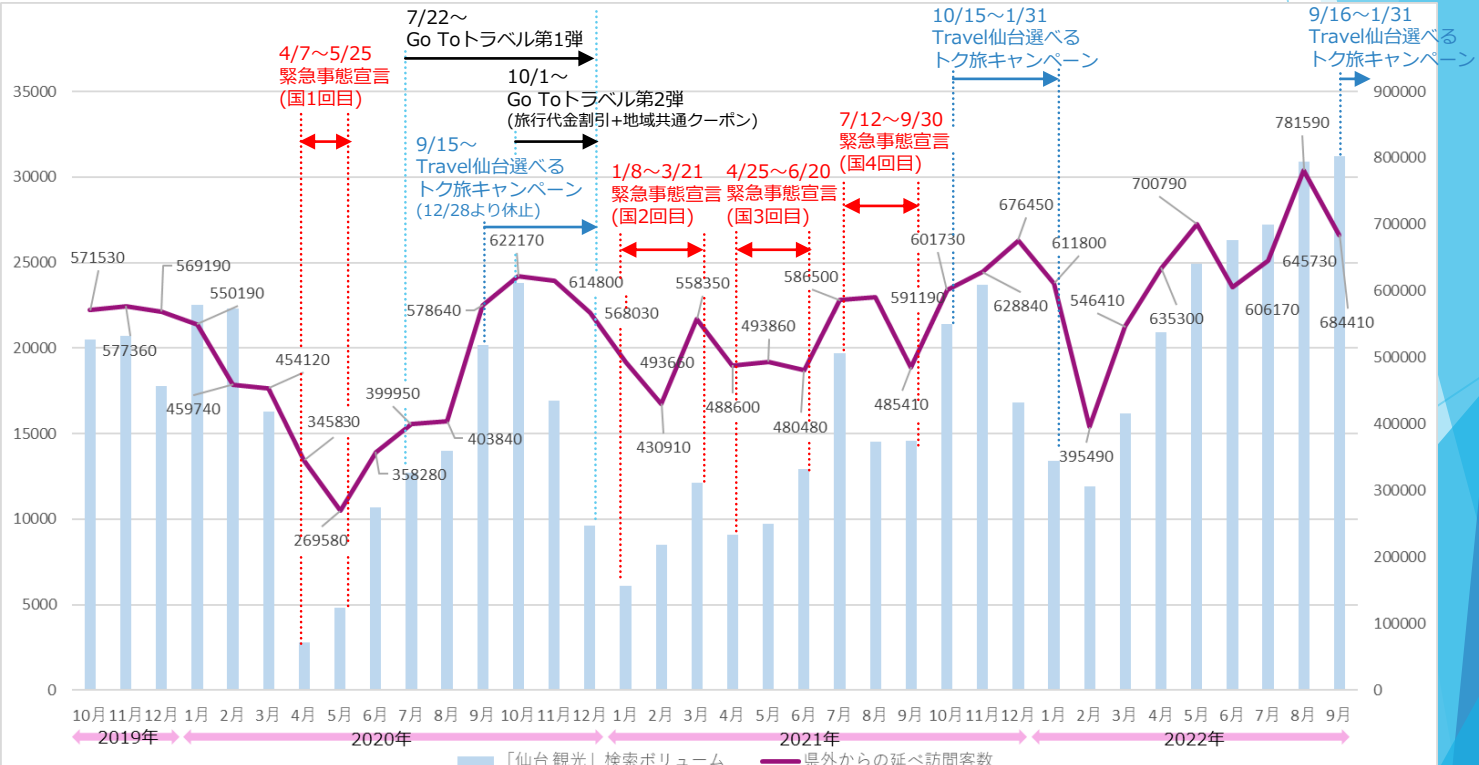
Section 4

検索行動データからみた仙台への関心度分析

(1) 検索ボリューム推移

「仙台 観光」の月間検索数(2019年10月～2022年9月)

全体的にみて、新型コロナウイルスの新規感染者数の増減に連動した動きになっています。計測を実施した2019年10月以降で見ると、2022年の4月以降の「仙台 観光」の検索ボリュームは、むしろ、新型コロナウイルス感染症流行前の2019年10月～12月時期の数値よりも高くなってきており、仙台への興味関心の高まりが感じられる結果となりました。県外からの延べ訪問者数の推移グラフも、ほぼ検索数に呼応した動きとなっていることが確認できることから、検索行動と訪問者行動が連動していることが確認できました。



検索行動データからみた仙台への関心度分析

(2) 検索した人の居住地(都道府県別)

2022年に「仙台 観光」と検索した人を居住地別に見た場合、2022年の数値は、コロナ禍の2020年、2021年に比べれば増加した形でしたが、2019年と比較した場合は、軒並み下回った結果となっています。2022年の伸び率と、2019年の減少率から見た場合、埼玉県、愛知県、千葉県が2021年比で2倍近くの人が検索し、2019年からの減少率も5%~7%という状況から、この3地域は仙台への興味関心が高まっているエリアとして見るのではないかと推察できます。

	都道府県	2022年	2021年	2021年比	2020年	2020年比	2019年	2019年比
1	東京都	34,100	18,440	↑ 185%	19,000	↑ 179%	37,900	↓ 90%
2	埼玉県	12,660	6,300	↑ 201%	7,310	↑ 173%	13,290	↓ 95%
3	神奈川県	11,960	6,200	↑ 193%	7,170	↑ 167%	13,480	↓ 89%
4	大阪府	11,490	6,160	↑ 187%	6,270	↑ 183%	12,440	↓ 92%
5	愛知県	8,900	4,290	↑ 207%	4,610	↑ 193%	9,540	↓ 93%
6	千葉県	8,510	4,330	↑ 197%	5,050	↑ 169%	9,200	↓ 93%
7	宮城県	7,860	5,820	↑ 135%	5,490	↑ 143%	10,650	↓ 74%
8	北海道	7,510	3,800	↑ 198%	4,620	↑ 163%	9,960	↓ 75%
9	兵庫県	4,050	2,300	↑ 176%	2,560	↑ 158%	4,980	↓ 81%
10	茨城県	3,770	2,090	↑ 180%	2,460	↑ 153%	4,410	↓ 85%

※検索ボリュームの単位(人)(推計値)

※各年の1月1日~9月30日で比較

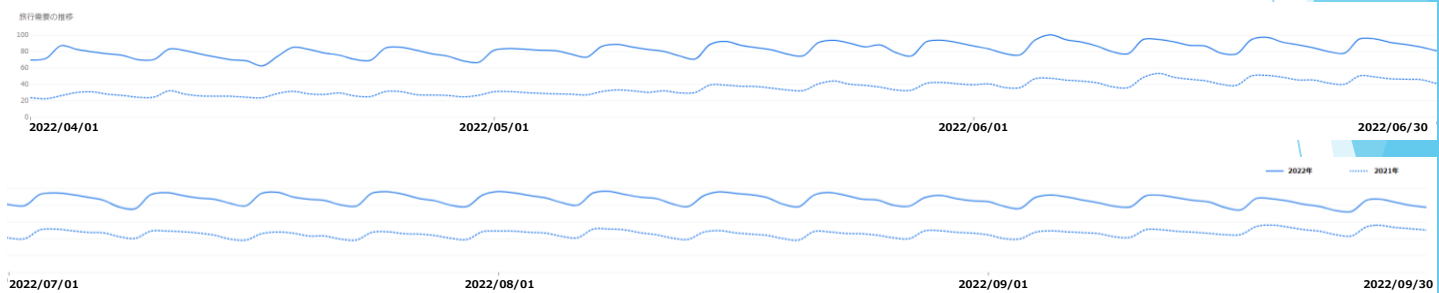
Section 5

Destination Insights with Googleで見る旅行トレンド

(1) 2022年4月～9月の全世界⇒全世界

全世界の人が旅行先として世界を対象に検索した結果となります。残念ながらこの期間では日本はランクインされておりませんでした。新型コロナウイルスの水際対策の強化等の影響を反映しているものと思われます。

【図1】 検索インタレスト推移(全世界⇒全世界)



※需要の推移を0-100までの数値で表し、推移を示す

【図2】 検索インタレストが高い国・都市(全世界⇒全世界)



【図3】 検索インタレストが上昇している国・都市(全世界⇒全世界)



※上昇率は、直前2カ月間の比較における伸び率

※Google 独自の検索データに基づく旅行業界関係者向けの分析ツール「Travel Insights with Google」の中で、旅行業界関係者や政府観光局向けに、日本を含むグローバルで都市、国、地域ごとに需要が高い旅行先を調査できる分析ツールである「Destination Insights」より抽出したデータです

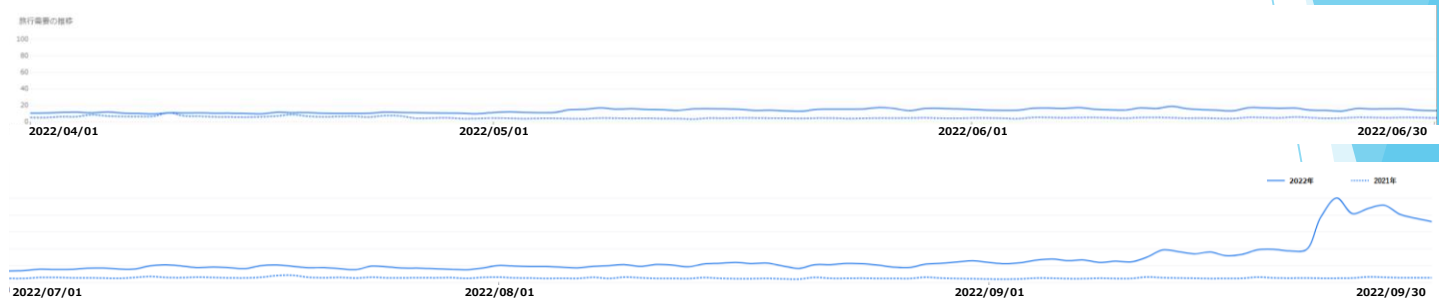
Section 5

Destination Insights with Googleで見る旅行トレンド

(2) 2022年4月～9月の全世界⇒日本

全世界の人が旅行先として日本を対象に検索した結果となります。残念ながらこの期間で仙台市はランクインされておりませんでした。仙台市はランキング外ではありますが、目的地として人気の高い都市では17位、目的地として需要が高まっている都市では16位でした。

【図4】 検索インタレスト推移(全世界⇒日本)



※需要の推移を0-100までの数値で表し、推移を示す

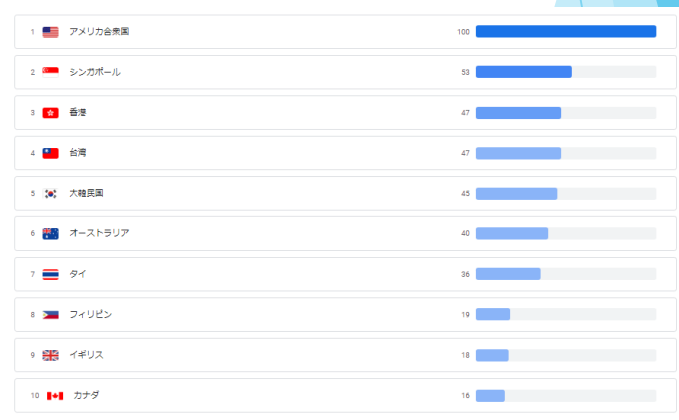
【図5】 検索インタレストが高い都市と上昇している都市(全世界⇒日本)



17位 仙台市

16位 仙台市

【図6】 日本への検索インタレストが高い国



※上昇率は、直前2カ月間の比較における伸び率

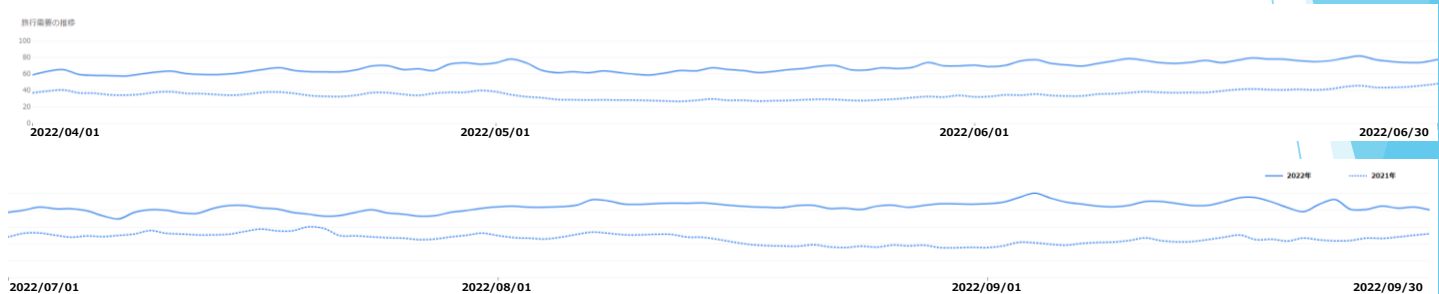
Section 5

Destination Insights with Googleで見る旅行トレンド

(3) 2022年4月～9月の日本⇒日本

国内の人が旅行先として国内都市を対象に検索した結果となります。仙台市は、目的地として人気の高い都市の8位にランクインされました。今後の推移に注目していきたいと思います。

【図7】 検索インタレスト推移(日本⇒日本)



※需要の推移を0-100までの数値で表し、推移を示す

【図8】 検索インタレストが高い地域・都市(日本⇒日本)



【図9】 検索インタレストが上昇している地域・都市(日本⇒日本)



※上昇率は、直前2カ月間の比較における伸び率

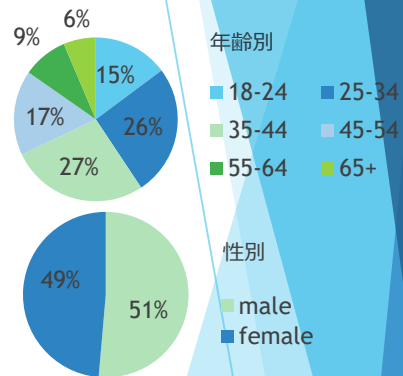
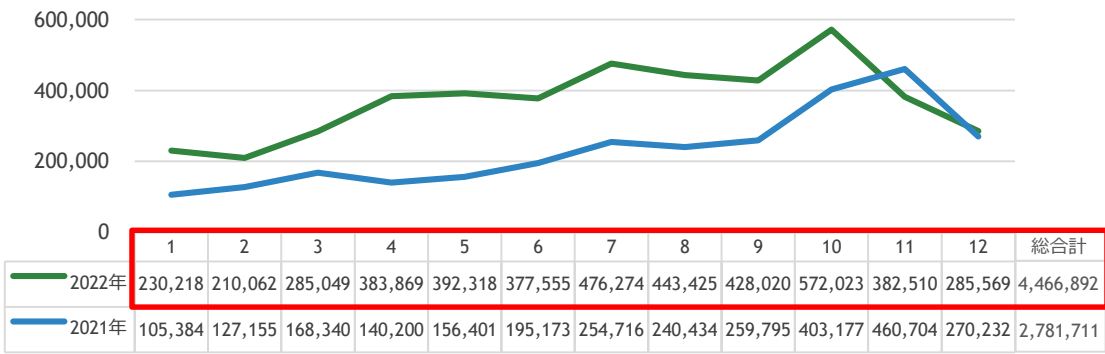
Section 6

「せんだい旅日和」アクセス解析

2022年1月～12月(月間)

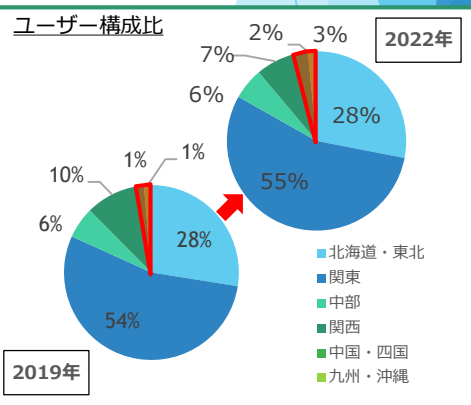
2022年は2021年に比べ、人流も戻りつつある中でページビュー（以下PV）数は前年比160.5%と増加しました。閲覧ユーザー構成比は2019年と比べほぼ変わりはないものの、中国・四国・九州・沖縄からのアクセスが増えており遠方への旅行に対する関心の高さがうかがえるほか、福岡で2022年10月に開催された「伊達政宗展」やそれに合わせて実施した就航プロモーションの効果もあるのではないかと推測できます。また、年齢や性別の構成比に偏りが少ないことから、公的ページとして一見バランスが取れたサイトと言える一方、ターゲティングが弱いサイトとなっている事が分かりました。内容的にはPV数ランキングでの分かるとおり、個別観光スポットよりはモデルコースが多く閲覧されており、観光周遊を促進するという本WEBサイトの目的はある程度達成できていると考えています。

「せんだい旅日和」全体のPV(ページビュー)数の推移



ページ別PV数

	ページ名	ページ内容	PV数
1	トップページ	せんだい旅日和のトップページ	551,554
2	仙台城跡	「仙台城跡」紹介ページ	260,618
3	モデルコース	モデルコース一覧ページ	234,035
4	観光スポット	観光スポット一覧ページ	131,240
5	絶景の松島・仙台を巡る旅	仙台・松島を巡るモデルコース	102,994
6	仙台の魅力	「仙台の魅力」紹介ページ	102,100
7	「仙台七夕まつり」を巡る旅	「仙台七夕まつり」特集ページ	97,687
8	定番！一ぶる仙台で行く伊達家ゆかりの三名所	伊達家ゆかりのスポットを巡るモデルコース	88,747
9	仙台大観音	「仙台大観音」紹介ページ	81,383
10	秋保大滝	「秋保大滝」紹介ページ	81,165



まとめ

2022年4月～9月の国内観光の来仙者数は、2019年に比べ約7割程度まで回復をしておりました。居住地別には、首都圏からの来仙割合に僅かな伸びが見られましたが、今後下期も同様の傾向が継続するのか、確認してまいりたいと思います。時間帯別においては、昼間滞在人口と夜間滞在人口との差が2019年に比べて縮まっている傾向は見られましたが、新型コロナウイルス感染症による夜間外食の減少や、出控えなどの影響が続いていた期間であるため、今後の人流の回復に伴う変化については、引き続き注視していきたいと思います。

今回、WEBの検索傾向分析から、仙台の観光に関する検索ボリュームが2022年に入ってから伸びてきており、仙台への関心度が高まっている傾向が見られたことは良い結果ではありましたが、実際の来訪と消費行動につながったのかどうか等、今後他データと併せて検証してまいりたいと考えております。

※今後本レポートは、上期、下期と2回に分けて提供してまいります。

レポートの内容に関するお問い合わせ先

(公財) 仙台観光国際協会 総務企画課企画広報係
武藤・中禮 (022-268-6263 / info@sentia-Sendai.jp)